

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：心理・人間関係学科

資格：教授

氏名：岡光 昇

研究分野	研究内容のキーワード
社会保障論	スウェーデン 社会保障の負担と原則 多元社会化
学位	最終学歴
経済学修士	神戸大学大学院 経済学研究科 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
1. 福祉行財政と福祉計画、社会保障論、公的扶助論	2014年8月現在	教科書や参考文献から重要度の高い箇所をピックアップしてまとめた要点集（A3版用紙22枚）を作成した。これは、定期試験および国家試験の合格に直結するよう工夫されたものである。
2. 授業要点集	2010年04月	教科書や参考文献から重要度の高い箇所をピックアップしてまとめた要点集（B4版用紙32枚）を作成した。これは、定期試験および国家試験の合格に直結するよう工夫されたものである。
3. 授業要点集	2010年04月	教科書や参考文献から重要度の高い箇所をピックアップしてまとめた要点集（B4版用紙32枚）を作成した。これは、定期試験および国家試験の合格に直結するよう工夫されたものである。
4. 授業要点集	2007年04月	授業の理解を容易にするために、授業要点集（B4版用紙36枚）を配布している。これは、講義で使用する教科書および参考文献に基づいて作成した講義ノートである。
5. 授業要点集	2007年04月	授業の理解を容易にするために、授業要点集（B4版用紙36枚）を配布している。これは、講義で使用する教科書および参考文献に基づいて作成した講義ノートである。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 第3版 各国の社会保障	共	2003年10月	法律文化社	足立・小林__大・岡光・永合・島本・森山・小林__甲・大西・金・井上 西側先進諸国の社会保障、とりわけ医療・年金・介護保障を中心として、その歴史・現状・将来をさぐった。担当部分第3章「スウェーデンの社会保障」においては、最近の年金改革の意義を中心にしてスウェーデンの社会保障を検討した。担当（pp. 57～74）
2. 社会保障の光と陰	共	2001年06月	高学出版	足立・井上・大西・岡光・平田・森山 わが国の社会保障制度のうち、年金保険や生活保護といった所得保障制度の現状と課題について考察した。担当（pp. 99～129）
3. 各国の介護保障	共	1998年04月	法律文化社	足立・井上・大西・岡光・川口・小林甲・小林大 わが国の介護保険法が1997年12月に衆・参両院の議決をへて成立し、2000年4月から実施される運びとなった。しかし、法律の制定でもって介護体制が確立されるわけではなく、細目は未決定のままであり実質的にはこれからの課題のほうが、はるかに困難

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
4. 各国の高齢者介護システム	共	1996年03月	(財)兵庫県長寿社会研究機構	であるといわなければならない。本書では、充実した介護体制の確立のために、主要8ヶ国の実験を分析した。全 (pp.152) (pp.29~46)
5. 新版各国の社会保障	共	1993年06月	法律文化社	井上・大西・岡光・小林甲・小林大 社会保障の中で最後に残された高齢者介護の問題を解明し、日本における高齢者介護保障システムを提案するために、アメリカ・スウェーデン・ドイツ・イギリス・イタリアなどの介護システムの特徴と問題点、および日本の介護システムに適用可能な施策について研究した。担当部分「スウェーデンの高齢者介護保障システム」(pp.32~41)
6. 新版 各国の社会保障	共	1993年06月	法律文化社	足立・小林・岡光・島本・大西・井上・小林 今日西側先進諸国は社会保障に関してさまざまな困難をかかえており、その将来はけっして明るいものではない。経済の低成長化や高齢化社会への移行にともなう社会保障の財政難といったようなほとんどの国に共通にみられる困難とならんで、それぞれの国はその国の特殊な事情や過去の伝統からくる固有の諸問題をかかえている。各国の社会保障の歴史・現状・将来をさぐった。担当部分第3章「スウェーデンの社会保障」(pp.55~71)
7. 福祉国家の歴史と展望	共	1988年04月	法律文化社	今日西側先進諸国は社会保障に関してさまざまな困難をかかえており、その将来はけっして明るいものではない。経済の低成長化や高齢化社会への移行にともなう社会保障の財政難といったようなほとんどの国に共通にみられる困難とならんで、それぞれの国はその国の特殊な事情や過去の伝統からくる固有の諸問題をかかえている。スウェーデン社会保障の歴史・現状・将来をさぐった。
8. 女性のための生活の経済学	共	1985年05月	嵯峨野書院	足立・小林・内山・長尾・大西・長尾・岡光・小林 現代の福祉国家が抱えている問題を解決するポイントは、近代という時代を克服して三元的秩序を具体的に実現していくことにある。そこで、協同組合を「協働」(Kooperation)の一形態としてとらえた上で、協同組合運動の歴史ならびに協同組合論議の潮流を概観した。その結果、問題解決の糸口は、シュルツェ・デーリッチェ、新社会主義そしてカトリック社会論に受け継がれていることが明らかになった。確かにこれら三様の社会思想は、思想系譜としては系統を異にしているが、しかし「協働」という経済社会の第三の調整メカニズムをみずからの理論体系の中に組み入れ、協同組合を体制論的に位置づけているという点では、この三者にはもっと深い底流の部分で共通するものがあるように思われる。担当部分第6章「協働の歴史と現代的意義」(pp.135~154)
9. 多元社会の構造と病理	共	1984年10月	新評論	谷川・小玉・上野・岡光・横山・中嶋・安藤・木野崎・北川・吉村 難解とされてきた経済学とりわけ景気論や金融論をとくに女子学生向けに平易に説明した概説書。景気循環、景気政策といえ非常に難解であり、とくに女子学生には日常生活から遠く隔たった事柄のように思われる。しかし、景気というのは大変身近な事象であり、しかも私達の生活にとって極めて切実な問題であるということ、事例を用いて具体的に説明し、景気とお金の関係についてできるだけ平易に解説した。担当部分第4章「揺れる生活—景気の波」(pp.94~116)
				丸谷・福田・岡光・大西・内山・小林・島本・喜田・長屋・吉沢・足立・小林 多元社会との関連で、新自由主義、新社会主義、新マルクス主義の三つの思想をとりあげ、その秩序構想を考察した。結論的にいえば、新マルクス主義はもっとも多元化の進んだ思想ではあるが、しかし多元化以前の重大な問題を抱えている。原子論的社会を指向しているかにみえる新自由主義に対して、新社会主義は二元論に立脚し、さらに三重体制構想にいたるかにみえるが、原理的基礎づけに関して破綻が生じている。担当部分第2章「新しい経済体制思想の登場と多元化社会」(pp.39~56)
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 年金給付設計の歩みと展望	単	2008年03月	人間学研究	公的年金の誕生から現在までの120年におよぶ給付設計の歩みを、①給付理念の確立期、②ILO条約批准の切札としてのスライド制の導入期、③「自動財政均衡メカニズム」や「マクロ経済スライド」といった

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 我が国の年金改革に関する報告書	共	2004年11月	政策研究フォーラム	少子高齢化対策の導入期の三時期に区分した上で、各時期を経済体制論的な視点から考察するとともに、とりわけ日本の年金制度の将来について、給付水準を中心に展望した。 足立正樹、岡光昇、永合位行、藤岡秀英 平成16年春の国会において成立した年金改正法および民主党から提起された年金改革案を手掛かりとして、年金制度の基本的および技術的な課題を指摘し、その対策を提言した。
3. スウェーデンの社会保障改革と多元社会の変質	単	2003年11月	改革者 第44巻 第11号	1990年代のスウェーデンは、政治・経済・国際環境の異変に襲われ、社会保障の改革を余儀なくされた。戦後ほぼ一貫して政権を担当してきた社民党、そしてその支持母体であるL0（スウェーデン労働組合連合会）が社会保障の転換を迫られることになった。その社会学上の背景も含めて、改革の内容を検討した。全（pp. 6～9）
4. スウェーデン社会保障給付費の分析	単	2000年03月	海外社会保障研究	1980年から93年までのスウェーデンにおける社会保障給付費の構造変化の背景と意味を分析した。全（p. 65～74）
5. スウェーデンの年金制度改革	単	2000年03月	武庫川女子大学紀要 4 7巻	スウェーデンは1998年の年金改革において、年金権の概念のもとに給付建てを拠出建てに替え、さらに一般的経済状況と人口動態に制度をリンクさせた。この制度改革の意義と問題点を検討した。全（pp. 29～37）
6. スウェーデンの少子化問題と家族政策	単	1999年03月	(財)兵庫県長寿社会 研究機構	スウェーデンは、第2次世界大戦後福祉国家建設に着手したときから、家族政策に対して大きな関心を寄せてきたが、最近になって積極的な出産奨励策を打ち出して、一応の成果を収めた。このスウェーデンの実験を「社会的公平性の確保」という視点から分析した。（pp. 15～26）
7. スウェーデン少子化問題の展望	単	1999年03月	武庫川女子大学紀要 4 6巻	スウェーデンが抱えている少子化問題を、非婚化・離婚化・同棲化・女性の社会進出を意味する家族変容、家族法の改正および北欧流価値ニヒリズムの視点から分析した。（pp. 19～27）
8. スウェーデン医療保障の構造的特質	単	1997年03月	武庫川女子大学紀要 4 4巻	1990年代のスウェーデンを取り巻く政治・経済・国際情勢の中で、従来の福祉国家路線の見直しが進められてきた。そこで本稿では福祉国家の2大構成要素の1つである社会保障とりわけ医療保障の分野で1990年以降どのような改革がおこなわれ、その結果、医療の供給構造がどのように変化したのか、また変化し得るのかということについて考察した。全（pp. 99～107）
9. スウェーデンの介護保障システム	単	1997年03月	(財)兵庫県長寿社会 研究機構	スウェーデンの介護保障システムは、1992年のエーデル改革および民営化によって一応の形が与えられることになった。しかし、こうしたプラグマティズムにより派生したシステムでは、これからの国際環境の変化に適応できない。介護保障を中心にスウェーデン社会の現状と課題を分析した。全（pp. 23～40）
10. 医療・福祉ケアの供給システムー スウェーデンの場合ー	単	1996年03月	武庫川女子大学人間学 研究会『人間学研究』 第11号	後期高齢者が増加の一途をたどっているスウェーデンの医療・福祉ケア供給システムの特徴と問題点について考察した。
11. 武蔵野市「福祉公社」に関する覚 書	単	1990年03月	武庫川女子大学人間学 研究会『人間学研究』 第5号	社会保障という「公助」から多くを期待できなくなった今日、「互助」とともに「自助」の具体的方策が模索されなければならない。この視点から武蔵野市「福祉公社」の試みについて検討した。（pp. 4～8）
12. 高齢化社会と在宅福祉に関する覚 書	単	1989年03月	武庫川女子大学人間学 研究会『人間学研究』 第4号	在宅福祉論が提起された背景、在宅福祉を成功させるための条件としての「地域福祉のネットワーク作り」、さらに在宅福祉を実践していく際の男女の役割分担について考察した。（pp. 43～46）
13. 新社会主義と協同組合 ーG-ヴァイサーを中心としてー	単	1987年12月	武庫川女子大学紀要第 3集（人間関係コース 編）	協同組合論は、現在、錯綜した状況にある。そうした中であって、新社会主義の代表的論者ヴァイサーは、「助成」という概念を中心として協同組合の特質を明らかにした。そして彼はこうした「助成」を基礎とする個別経済を拡大することによって、総体経済の三元的編成を構想した。彼がこのように独自の概念を形成した主たる理由は、個人の自発的な相互扶助の動機を、市場経済的な競争動機および管理経済的な扶養動機と並んで、あるいはそれら以上に経済・社会にとって重要なものととらえていたからである。（pp. 177～182）
14. 協同組合と連帯 ーD. v. プレ ンターノの「総合局面」を中心と してー	単	1985年12月	武庫川女子大学紀要第 1集（人間関係コース 編）	協同組合にみられる「連帯」の機能に着目することによって、経済体制論でも、市場・計画とならぶ第三の整序原則として協同組合を評価する論者も少なくない。一方、1970年代からコオペラチオン・グ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
15. 経済学入門 ―現代日本の政策課題に関連して―	単	1984年03月	武庫川女子大学教育研究会『武庫川教育』第16号	ループと称せられてきたE. ベトヒャーの系譜の協同組合論では、「誘因・貢献システム」が構想推奨され、協同組合は経済体制論上特殊な位置づけがなされている。本稿ではD-v-プレントナーを中心として、ベトヒャーの見解が検討される。(pp. 65～72)
16. 協同組合の意味とその批判 ―G. ヴァイサーを中心として―	単	1983年12月	武庫川女子大学紀要第31集(教育学科編)	日本経済がかかえている諸問題を、経過・構造・体制・基盤の面から総合的・体系的にとらえ、その対策を考察した。(pp. 39～43)
17. 中小企業政策原理論としての「中産階層政策」	単	1982年03月	日向学院論集第25号	西ドイツの協同組合は大規模化を通して、いわゆる営利企業と大差がなくなってきており、様式適合性つまり変質化が問われている。それどころか最近では協同組合は市場の独占的企業と同様のあるいはそれ以上に有害な作用を及ぼしている、と批判されている。こうした協同組合批判を契機として、西ドイツでは協同組合法の改正の必要性が議論されている。新社会主義者G. ヴァイサーもその渦中にある。協同組合の意味や機能を中心にして、G. ヴァイサーの議論に検討を加えた。(pp. 85～90)
18. 競争秩序の思想的背景 ―W. オイケンとE. E. ナウロト―	単	1981年03月	日向学院論集第24号	これまでの中小企業政策には、中小企業の弱小性・劣等性の面をとらえて、いわば経済的弱者の救済という趣が多分にあったように思われる。そこで本稿では、カトリック社会論の中産階層政策をもとにして、中小企業の経済的・社会的・政治的・体制論的な意義を検討して、中小企業政策を理念づけようとした。(pp. 31～53)
修士論文では、新自由主義の経済社会構想としてF. A. ハイエクの構想を取り上げたが、しかし新自由主義はけっして統一的思想運動ではなく、多様な流れを含んでいる。そこで、フライブルグ学派の中心人物W. オイケンの経済社会構想「競争秩序」を、カトリック社会論の立場から批判的かつ積極的に検討を加えたもの。(pp. 31～41)				

その他

1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 日本の年金問題と改革案の模索―内外の議論をふまえて―	単	2004年06月		政府や民主党の年金改革案とともに、スウェーデンの新年金制度や世界銀行・ILOの年金構想といった内外の年金改革案をふまえて、日本における年金政策の基本方向を模索した。
2. 新社会主義と協同組合 ―G. ヴァイサーを中心として―	単	1987年05月		現代の福祉国家が抱えている諸問題の解決策を模索するという視点から、新社会主義の代表的論者の一人G. ヴァイサーの協同組合論を検討した。
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 介護問題と家族『学園通信』(武庫川学院 第59号)介護問題と家族という視点からスウェーデン等を紹介		1997年		
2. 公的介護保険の創設をめぐって		1994年		
3. 「比較優位」の考え方に学ぶ 武庫川女子大学人間学研究会『人間学研究』第2号		1992年		
4. 現代社会と人間 ―科学技術を中心として― 武庫川女子大学人間学研究会『人間学研究』創刊号		1992年		
5. スウェーデン社会民主党の敗北とその意味 武庫川女子大学人間学研究会『人間学研究』第7号		1992年		
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	経済社会学会 日本経済政策学会